

# 内野小だより

令和3年11月号  
浜松市立内野小学校



11月に入り、学校では、「就学時健康診断」を行いました。来年度、入学する予定の206名が保護者と共に来校し、入学への準備がスタートしました。早いものです。今年も残り2か月。2学期も折り返し地点を越えました。  
さて、5日（金）に朝会があり、子供たちに次のような話をしました。

## 「なりたい自分」に向かって

校長 川村 寿満

（～前略～）先週、代表委員会が開かれ、内野小学校の直したいところやもっとよくしたいところ、そのために取り組みたいことについて話し合われました。その内容については、企画委員会からお知らせがあるので、詳しくは話しませんが、出された意見の中に「自分から積極的に行動する人が少ない」というのがありました。

それで、思い出したことがあります。いつかみんなにお話ししようと思っていたことです。まだ、暑いころだったでしょうか。朝の登校後に中庭を掃いている子供たちがいました。「進んでやってくれているの」と聞くと「はい」とうなずきました。わたしはその子供たちに「きれいになってみんなが気持ちよく生活できるね。」と返しました。よいと思ったことを進んでいる子供たちの表情は、とても爽やかに生き生きしていました。みんなに挨拶を広げようと、委員会としての取組が終わった後も、朝、進んで挨拶をしている6年生もいます。これらは、誰かに頼まれた行動でも、誰かに褒められるための行動でもありません。内野小学校のみんなが気持ちよく生活できるように、自分は何ができるのかを考えて、自分で決めて行動しているのです。自分が動くことで、自分が変わり、周りも変わっていきます。この話を聞いて、みなさんは、何ができるでしょうか。内野小学校は、1350人の大きな集団です。小さなことでもみんながやれば大きな動きとなります。ぜひ考えて行動しましょう。

5年生は、最上級生に向けたこれからの半年間の合い言葉をみんなで作って、「下級生の手本となれる6年生になる」と決めました。そのための取組を学級で話し合い、学年集会を開いて発表し合いました。そして、今の自分たちが生活面や学習面で、下級生の手本となっているのかを確認しました。

さて、5年生の皆さん、今回の皆さんの取組は大変すばらしい取組です。「なりたい自分」をはっきりと決めました。その「なりたい自分」に向かって積極的に行動してください。下級生の手本となる行動に進んで取り組みましょう。それと同じように手本にしてほしくない行動をしない・やめる勇気を持ちましょう。そして、大切なことは続けることです。続けることが自分を育てていきます。みんなで声を掛け合って続けていきましょう。

全校のみんなで作って今よりもっとよい内野小学校を作っていきます。



本来ならば、学校は今が一番の充実期です。しかし、緊急事態宣言が解除されたとは言え、まだまだ日常は遠く、教育活動も十分とまで言えない状況です。そんな中でも、子供たちは、来年度を見据え、前を向いて取り組んでいます。学校は「人が集まり、集団で学び、生活す

る場所」です。内野小学校では、1350人の中で一人ひとりが育てられます。子供は「親の、そして家庭の宝」であることは言うまでもないことですが、その上に「地域の宝」であり、「国の宝」であることも忘れてはなりません。一人ひとりの子供を育てることは、学校だけが力を注ぐのではなく、親や家庭と、そして、地域社会が歩調をそろえ、心を合わせて進まなければなりません。皆様の変わらぬ御支援・御協力をお願いいたします。

## 「感動をもらった鑑賞教室」

10月7日（木）、8日（金）の2日にわたって、鑑賞教室を行いました。本年度は、新型コロナウイルス感染症の対策として、学年ごとに劇団たんぽぽさんの劇を鑑賞しました。今回、上演された「100万回生きたねこ」という作品は、100万回生まれて、100万回生きた、とても不思議なねこの話でした。心あたたまる内容で、生きる意味を考えさせられるものでした。



観劇後の子供たちの感想を紹介します。

私は、最後のところが気に入りました。生きるっていいことだなと思いました。

私は、トラがシロを好きすぎて、シロが死んだ後、泣いていた場面に感動しました。理由は、大好きな人が死んだら、きっと私も悲しみます。だからその場面に共感しました。

私は、大切な人を失うのは、とてもつらいことだと思いました。ずっと仲がいい人が急に天国へ行ってしまったら、私も大泣きすると思います。大好きな人と二度と会えないからです。私はたくさんの人に助けられながら生きています。だから、人生は一人で歩むのではなく、みんなで助け合いながら生きていくものではないかと思いました。お話を通して、命が一番大切なものだということが伝わりました。

私は、「100万回生きたねこ」を観て、生きていくときに大切なことは何かについて考えました。私は、自分のことだけを考えるのではなく、人の気持ちも考えていくことが大切だと思いました。

## 5年 総合「みんなにやさしい米づくり」

5年生は、総合的な学習の時間（「みんなにやさしい米づくり」）の中で、環境に優しいアイガモ農法で米づくりを行いました。

実りの秋を迎え、10月11日（月）には、稲刈りをしました。地域で農業を営む中道達哉さん、中道想さんから指導を受けた後、鎌で稲を刈り、紐で縛って干しました。その後、10月21日（木）には、脱穀をしました。足踏み脱穀機と自動で脱穀ができる機械（ハーベスタ）の両方を体験しました。足踏み脱穀機の大変さと機械の効率のよさを実感し、驚きの声が上がっていました。子供たちは、収穫の喜びを感じていました。



【稲刈りの様子】



【指導してくださった中道さん】



【足踏み脱穀機を使っでの脱穀】